



2014年
2月3日
No. 140

## 2014 年度 東京蜘蛛談話会総会例会

1. 日時 2014年4月20日(日) 10時より(開場9時30分)
2. 場所 東京環境工科専門学校 〒120-0022 東京都墨田区江東橋3-3-7  
JR 総武線 東京メトロ半蔵門線 錦糸町駅南口から徒歩3分
3. 連絡 当日は、東京環境工科専門学校の電話が使用できないので、緊急時には以下に連絡ください。  
加藤輝代子 090-7012-6458 初芝伸吾 090-6156-8378
4. その他 プロジェクター, OHP 等用意いたします。
5. 講演をご希望の方は、演題と使用希望機材  
(スライド, OHP, コンピュータ)  
を事務局初芝までお知らせください。

〒186-0002 東京都国立市東3-11-18-203 有限会社エコシス 初芝伸吾  
mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.jp  
Tel : 042-501-2651 Fax:042-501-2652

●錦糸町駅南口から徒歩3分です。



## 東京蜘蛛談話会 2013 年度採集観察会

1. 期 日：第 4 回 2014 年 2 月 16 日(日)
2. 場 所：埼玉県日高市 西武池袋線高麗駅～日和田山
3. 集 合：西武高麗駅改札前午前 10 時  
高麗駅から日和田山まで徒歩で採集しながら移動します。
4. 世話人：平松毅久・仲條竜太  
連絡先：平松携帯 080-6633-2737

※ 9 時台高麗駅着の秩父方面行きは 2 本しかありません  
(9 時 27 分, 9 時 50 分) .  
駅前と途中に 1 軒ずつコンビニがあります

## 東京蜘蛛談話会 2014 年度採集観察会

1. 期 日：第 1 回 2014 年 5 月 11 日 (日) 第 2 回 2014 年 7 月 13 日(日)  
第 3 回 2014 年 10 月 19 日 (日) 第 4 回 2015 年 2 月 15 日(日)
2. 場 所：神奈川県藤沢市 新林(しんばやし)公園  
<http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/koen/data06777.shtml>  
午前中は公園内平地, 午後は林内自然散策路
3. 集 合：集合 10:00 藤沢駅南口バス乗り場①  
藤沢駅南口乗場①「桔梗山行き」行き 10:15 発に乗車. ひとつめのバス停  
「富士見ヶ丘」下車(170 円). そこから徒歩 5 分. 乗り遅れると他の乗場  
から鎌倉・手広方面行のバスに乗ることになります. 富士見ヶ丘経由のバス  
はたくさんありますがバス停から新林公園までは路地を歩いて行く必要が  
あり分かり難いです。案内板もありません。
4. 世話人：池田博明  
携帯電話：090-9670-1525

東京蜘蛛談話会の会費は, 一般 3800 円, 学生 2000 円です。  
郵便振替口座 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会へお願いします。  
会費のことは: 会計担当 須黒達巳  
〒305-0821 つくば市春日 4-10-5 春日ビューハイツ B101  
4 月以後は〒240-0026 横浜市保土ヶ谷区権太坂 1-39-6  
TEL: 080-5683-2765 E-mail: t.s.schlegelii@gmail.com

※談話会の会費は前納制となっております。本号に請求書と振込用紙を同封  
いたしましたので来年度分までの会費の納入をお願いいたします

# 東京蜘蛛談話会例会

2013年12月8日 東京環境工科専門学校にて  
参加者一同



(1) ジョロウグモの  
個体数密度の年変化  
(40年間の記録)およ  
び、その他のクモ類で  
の個体数密度の変化  
傾向

新海 明  
代理谷川



(2) 森林内ではクサ  
グモ消失?

池田博明



(3) タイ蜘蛛見遊山  
の旅

谷川明男



(4) タイで採集した  
ハエトリグモ

須黒達巳



(5) 青ヶ島紀行

笹岡文雄



(6) フクログモから  
生まれた?

新井浩司



(7) コモリグモの卵  
のうに寄生するハチ

輿石紗葉子



(8) 緑のハグモの正  
体

平松毅久



(9) クモの話題3つ

小野展嗣



## 京都だより (1) 洛北, 一乗寺あたり

新海 明

その折々で、さまざまな種類のクモを調査の対象として、日本各地を回り続けてきた。沖縄へはかれこれ50回は通ったと思う・・・が、これ以上に訪れている場所があった。京都である。しかと数えたことはないが、沖縄行の2倍に達すると思う。そして、京都を訪ねるようになった理由も他とは大きく異なっていた。クモの調査で赴いたのは、おそらく数回だろう。学生時代に修学旅行で訪れたものを除けば、京都行の始まりは、立命館大学での京都クモゼミであった。1983年のことだ。毎月一回日曜日に開かれるゼミの前日に京都に入り、宿泊所を提供して下さった吉田真さん宅を訪問する前の半日を利用して、京都観光をしていたのだった。訪れるところは原則一箇所に決めていた。その方が印象が濃くなると考えたのだ。「なんと贅沢な！」とお思いの方もいるだろうが、目的はクモゼミなので「観光」は「おまけ」に過ぎなかった。その当時のお気に入りの場所は洛北に集中していた。これは吉田宅の近傍であることに関係したのに相違ない。特に、曼殊院を少し下った、なだらかに広がる畑地の農道から見た京都市街の眺めが素晴しかった。しかし、宅地化が進み、あの景観が今も残っているのか不安がある。

洛北に佇む寺院で足繁く通ったところがある。詩仙堂の近くに位置する金福寺だ。知る人ぞ知る洛北の小さな古刹だ。虚子による「京をひと目の墓どころ」の句が読まれた場所である。本堂の上方にある芭蕉庵へ上る途上の木立の隙間から見る景色は、まさにこの句の通りだった。本堂内に飾られた蕪村による天橋立図も見事だった。当時の人々も私と同じように、この図を見て丹後

にある景勝地に思いを馳せたに違いない。兵庫豊岡で開催された学会大会の折に、私も天橋立に立ち寄った。百聞は一見にしかず。山頂から見た景色は金福寺で見た絵巻物通りだった。

一乗寺下がり松にある、詩仙堂は語る必要もなからう。噂に違わぬ名園である。ここを訪れたなら用意されたサンダルに履き替えて庭園内を逍遙せねば、庭園のすばらしさは味わえない。鷲森神社は隠れた名勝だ。旧吉田宅のすぐ近くにあったので、この神社をよく通り抜けたものだ。アワセグモが見られる杉の大木があり、夜間観察などもしたことがあった。紅葉で有名になった圓光寺もこの近くにある。TVで紹介されて急に観光客が押し寄せるようになった。ただこのモミジはまだ若いので、私にはイマイチの庭園であった。曼殊院をとり巻く小路の景観は京都でも一二を争う素晴しさだと、私は思っている。苔むしたなだらかな土塁上の白い練り堀とそこに縫うように続く樟や楓などの樹林は、初夏には穏やかな緑陰を作り、晩秋には鮮やかな紅葉の道を描くのだ。しんとした底冷えする真冬でも枯れた梢に小鳥が声を響かせ、冬の「か弱い」日差しが降り注ぐさまは、観光客が途絶えたこの時期にしか味わえない古の都路を醸し出す。凍てつく曼殊院の廊下は冷気を足元から這い上がらせ、あの有名な幽霊の襖を見たときの悪寒をも凌ぐ。しかし、この寒さもなぜかここでは清々しく感じるのだ。

曼殊院に隣接する武田製菓の薬草園も見所だ。寺院のはずれにある小さな門をくぐると、そのまま薬草園へと入れる。菰（こも）に覆われた朝鮮人参の苗床。色とりどりに咲く椿の花々が思い出される。曼殊院をはさんで薬草園と反対に位置する邸宅の板塀にはたくさんのヒラタグモの巣が見られた。白いテントの上にはヤスデらしき食べかすが乗っかっていた。「ヒラタの食性調査が出来そうですね」などと、吉田さんと話しながら朝の散歩を楽しんだことを懐かしく思い出す。

### 中平清先生の追悼文作成のご依頼

現在、中平清先生のご遺族および関係者の手によって、先生の「業績集」と「思い出」をまとめる作業がなされています。先生が亡くなられてすでに7年が経過し、故人を知る会員も少なくなりつつあります。そこで、中平先生と交流があった方を中心に、先生との「思い出」やその「研究についての感想」など、どんな内容でも構いませんので原稿をお寄せいただけたら幸いです。

なお、この原稿は、東京クモ談話会誌 KISHIDAIA や談話会通信に掲載するものではありませんので、その点をご了承ください。

内容 中平清先生に関するものならなんでも構いません。字数の制限もありません。

締め切り 2014年5月末日。

送付先 新海明 〒192-0352八王子市大塚274-29-603

e-mail. [arikas@cilas.net](mailto:arikas@cilas.net)



## ジヨウグモ

加藤康子

暮れていく川辺に立つと  
 小鴨のつがいが泳いでゆく  
 つかず離れず泳いでゆく  
 八の字の波紋がのびて  
 川の中ほどで交わり  
 幾重にも重なっては融け  
 光の言葉となった  
 なんて！やさしいおしゃべり

見ると  
 かたわらの立木の葉裏に  
 白い糸の塊を綴じつけた  
 ジヨウグモの卵囊があった  
 母グモはまだ去ることなく  
 卵のそばに寄りそっている  
 夏の頃の

ビロードの光は失われて  
 細い腹部は寒々としている  
 もうすぐ訪れる冬を  
 彼女はそれを  
 知っているだろうか  
 私は爪先立って  
 ジヨウグモに顔を近づけた  
 母の思いを小さくふるえ  
 日は沈み 伝えてきた  
 林の木々にふちどられた  
 名残りの空を  
 一羽の鷺が切りさいて飛んだ  
 闇の気配のなかで  
 いつしか  
 クモは影になっ